

## 1 はじめに

本支部では「衣生活に関する指導」の研究を始めて今年度で6年目となる。今までの研究で基礎縫いの「まつり縫い」・「スナップつけ」や、「リバーシブルバック」の製作手順の視覚教材の作成や授業実践をおこなってきた。

今年度は、今まで作成してきた視覚教材や授業実践をもとに、「衣生活に関する指導」全体に目を向け、学習指導案の作成・使用するワークシートの検討・掲示物の作成、授業実践をおこなった。授業実践では、昨年度の反省を生かし改善を加え「便利ポケットのデザイン」を班の中で発表し、アドバイスをもらい再考・工夫する授業をおこなった。

## 2 研究経過

- 5月 研究組織づくり、研究テーマの確認  
学習指導案の検討
- 6月 学習指導案・ワークシートの検討
- 8月 掲示物の作成  
授業実践時の学習指導案・ワークシートの見直し  
授業実践（山梨南中学校 鈴木美奈子教諭  
「便利ポケットをアドバイスをもとに、再考し、工夫しよう。」
- 9月 県教研レポートの検討  
掲示物の作成

## 3 研究推進委員

永田恵子（大和中）  
向山栄子（山梨北中） 古屋奈穂子（勝沼中） 石田周子（大和中）  
藤本珠美（塩山中） 鈴木美奈子（山梨南中）

## 4 研究テーマ

「未来社会を展望し、生活を創る力を育てる技術・家庭科教育」  
～ 基礎縫いを生かしたリバーシブルバックの製作 ～

## 5 研究内容

○「衣生活」の研究を進めるにあたっての研究の柱を昨年までと同様以下の3つとした。

### ①基礎・基本の定着

- ・目標とする姿を設定し、自己評価をさせていく。
- ・適切な自己評価ができるように、ワークシートを工夫していく。

### ②生活に生かせる工夫を取り入れた作品づくり

- ・誰が、いつ、どんな場面で使うのか等の作品の活用場面を考えることで、必要となる工夫を作品づくりに反映させる。
- ・作品づくりで、生徒が工夫できそうな内容を、教材化しておく。

### ③言語活動の充実

- ・班での話し合い活動を意識的に取り入れていく。
- ・自分の考えを書き込むことができるように、ワークシートを工夫していく。

## ○研究内容

昨年度までに作成した視覚教材や実践してきた授業を有効に活用しながら、以下の内容に取り組んだ。

### ①学習指導案（略案）の作成

- ・「衣生活に関わる指導」の総時間数21時間の、学習指導案（略案）の作成をおこなった。

### ②ワークシートの検討・工夫・改善

- ・学習指導案と照らし合わせながら、ワークシートの確認をおこなった。
- ・必要に応じて、ワークシートの内容を変更したり、追加のワークシートを作成した。
- ・以下はワークシート作成上の工夫点である。
  - ・目標とする姿を設定し、自己評価ができるように工夫した。
  - ・必要に応じて、自分の考えを書き込むことができるように、スペースを設けた。
  - ・学習の軌跡が分かるように、毎時間の振り返りを1枚の用紙にまとめた。

### ③授業実践

- ・昨年度までの授業実践の反省をもとに、改善を加えた授業を実践した。
- ・思考の過程がわかるように工夫したワークシートを使用して、班での話し合い活動の授業を実践した。

### ④掲示物の作成

- ・振り返りシートを活用し、「先輩達からのアドバイス」として、作業が上手にできたときと失敗したときの様子をまとめた。
- ・生徒の思考を深めるために、先輩たちの作品例や製作手順等の掲示物を作成した。

# 技術・家庭科学習指導案

日 時 平成 27 年 8 月 28 日

対 象 2 年 1 組 30 名

授業者 山梨市立山梨南中学校 鈴木美奈子

場 所 山梨市立山梨南中学校被服室

## 1 題材名 「自分や家族の生活を豊かにするバッグの製作」 C (3) ア

### 2 題材について

#### (1) 題材観

メディア社会と言われる昨今、多くのファッション情報をたやすく得たり、ネットを通して手頃な価格の衣服を注文したり、ファストファッションと呼ばれるデザイン性が高く、手頃な衣服を販売する店舗で購入する生徒も多い。着られなくなったら、すぐに買い替えるなど、修繕して利用することもあまりなく、自ら布を用いて、自分や家族の生活を豊かにするために工夫し、製作した経験も少ない。

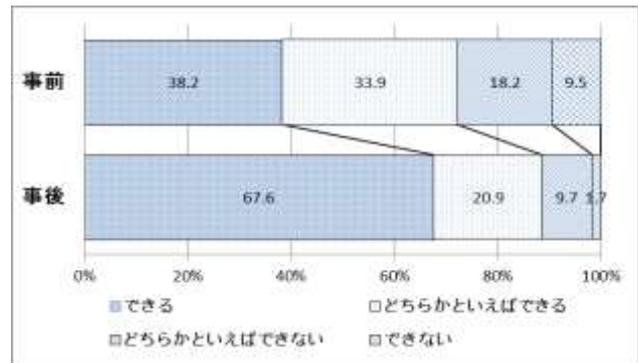
このような現状の中で、自分なりに考え工夫をし、ひとつのものを作り上げることは製作過程そのものが貴重な経験であり、完成後に得られる達成感や成就感はその後のものづくりへの原動力になると考える。また、衣服の選択や手入れや補修についての基礎的・基本的な知識や技術を習得しそれらを活用して課題を解決することは、衣生活を豊かにしようとする意欲を向上させ主体的な態度を培う。

学習指導要領では衣生活と住生活に関する実践的・体験的な学習活動を通して、衣服の選択、着用、手入れと住居の安全で快適な住まい方についての基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、衣服と住居の機能について関心と理解を深め、これらの生活を展望して、課題をもって衣生活と住生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることをねらいとしている。

そこで、布を用いた製作では、自分なりのアイデアを生かすことができ、日常生活のあらゆる場面で利用できるリバーシブルバッグを実習題材とし、その製作を行うことにより工夫し創造する能力を身に付けさせたいと考えた。使用する布等はキット教材ではあるが、使用目的を考えて形や大きさ、デザインを工夫することができる「便利ポケット」を付けることで、製作し活用することの楽しさを感じさせることができる。また、本題材を通してさらに生活を豊かにすることへの意欲につなげていきたい。

## (2) 生徒観

年度始めに小学校での「生活に役立つ物の製作」に関わる基礎的、基本的な事項についての「基礎縫い調査」を行った。小学校で学習した基礎的な技能についての自己評価は「できる」「どちらかといえばできる」が約7割を占めているが、実際に授業で基礎縫いをさせてみると意外に



そこで基礎的、基本的な事項を定着させるために、手縫い（玉結び、玉どめ、なみ縫い、ボタン付け）、ミシン縫い（直線縫い、返し縫い、角縫い）による基礎縫い練習をした後、「基礎縫い診断」を行い、自分の技能を自己評価することで確認させた。さらに、中学校で学習する「まつり縫い」「スナップ付け」を含めた基礎縫いの定着を図ることで製作を効率よく進めることができると考えた。また、使用目的に応じたポケットの形や

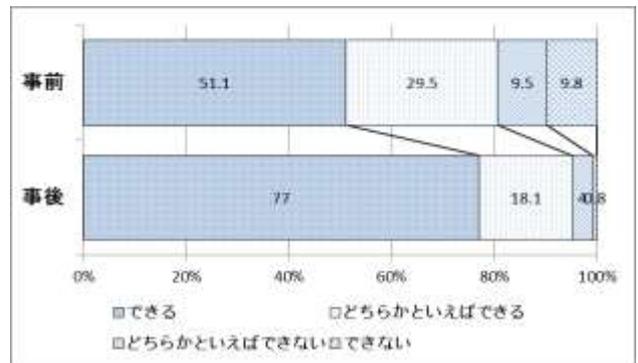


図2 基礎縫い調査（ミシン縫い）

大きさ、デザインを考慮した縫い方や作業能率、付属品のアレンジの仕方などの工夫を自分の基礎縫いの技能を知ること、見通しをもって計画できると考えた。

自分や家族の生活をより快適、便利にする「リバーシブルバッグ」を工夫して製作し、活用につなげることで、自分の衣生活について主体的に考え、工夫して、課題の解決策を見だし、実践につなげることができる生徒を育てたいと考える。

## (3) 教材観（手立て）

衣生活と住生活に関する実践的・体験的な学習活動を通して、衣服と社会生活との関わりを理解させ、目的に応じた衣服の選択、着用、手入れについての知識を身に付け実践できるようにさせる。さらに繊維の性質を調べたり、汚れやしみ抜きの簡易実験などを行い、手入れや保管の仕方を実生活に生かせるようにしたい。

また、衣生活の学習における基礎的、基本的な知識や技術の定着を図るため、これまでに行ってきた基礎縫い（補修の技術を含む手縫い、ミシン縫い）の学習を生かし、使用目的を考えた形や大きさ、デザインが工夫できる便利ポケットをつけたリバーシブルバッグを製作し、活用することを通して、自分や家族の生活を快適、安全、豊かに営む工夫をさせる。

既習の基礎縫いに、中学校での学習内容である「まつり縫い」「スナップ付け」を加えた「基礎縫い診断表（手縫い編）」やミシンの直線縫い、角縫い、三つ折り縫いの「基礎縫い診断表（ミシン編）」を手元に置き、「便利ポケット」の構想場面やアドバイスし合う場面で参考にさせ、各自の技能を生かした「便利ポケット」を考案させる。また「誰がどのよ

うな場面に使うのか」を意識しながら製作計画を立てることで、利用価値の高い生活に役立つ「リバーシブルバッグ」の製作につなげられるようにした。

## I 『思考のトレーニング』の工夫

本題材では、使用目的をふまえ「便利ポケット」の大きさや形、付ける位置、製作方法を考案していく場面に『思考のトレーニング』を取り入れながら、各自が考案、計画した「便利ポケット」をグループの中で発表し、お互いのアドバイスを通して課題を発見していく。今まで学習してきた基本的・基礎的な技術をもとに、技術・家庭科の視点でとらえ、自分なりに思考・判断し解決していく「問題解決的な学習Ⅰ」の場面である。

『思考のトレーニング』は1年次では、「問題解決的な学習Ⅰ」の場面において、1日に必要な栄養素と食品の栄養的特徴をふまえて、栄養バランスを考えた食事の計画を立てる場面を設定し行った。実践は長期休みの課題として行い、実践後に「問題解決的な学習Ⅱ」の場面として、必要な栄養素を満たすための食品が使われていたか、適切な調理方法であったかなどを念頭に、グループでの発表会を通して行った。

これらの学習をふまえ、『思考のトレーニング』をグループでの発表、アドバイス、自分なりの思考・判断・課題解決の場面に取り入れながら、自分や家族の生活を快適、便利にする「リバーシブルバッグ」の製作、活用につなげていきたい。

## II ワークシートの工夫

課題の発見、解決のために「思考の空間」を取り入れたワークシートを使っていく。思考の過程がわかるように矢印を入れ、また仲間からのアドバイスとして「よい点」、「改善点」を2色の付箋に記入、交換しワークシートに添付させる。アドバイスが貼られたワークシートを見て再び自分の課題と向き合い、修正し、デザイン決定、製作へとつなげることができるようにしたい。

## III つなぎの工夫

生徒が課題を解決しようと衣服の材料や状態に応じた手入れの仕方を考えたり、「リバーシブルバック」の製作計画を立てたりするなどの「思考する場面」において、その思考を「助け・導き・深める」ために行う教師及び、生徒の活動のことである。

「つなぎA（教師の声かけ・つぶやき）」

- ① 目標を達成できるように今まで学習してきたワークシートが活用できるように声掛けをしたり、自分の技能に合った工夫や時間的な見通しがができるような声掛けをする。
- ② 話し合い活動が円滑に進むように仲間の製作計画を理解して具体的なアドバイスができるように声掛けをする。

「つなぎB（ワークシートの評価とフィードバック）」

- ① 基礎縫い診断後、自己評価を行い友人や教師がコメントを記入する。記入後の診断表をフードバックし、使用目的にあった便利ポケットの製作計画に役立たせる。

② 製作計画を立てたワークシートを評価し生徒にフィードバックしていく。

「つなぎC（生徒同士の話し合い活動による相互評価）」

- ① 生徒の思考を広げ、深めさせるためにグループごとに自分が立てた製作計画を発表し、その内容に対して質問や意見を交換する。それにより、使用目的を考えた形や大きさ、デザイン、縫い方などを明確にする。
- ② 仲間の意見をうけて、再度自分の計画を見直し目的にあったバッグの製作につなげる。

### 3 本時の展開

#### (1) 本時の目標

- ・便利ポケットのアドバイスをもとに、製作計画を再考し、工夫することができる。(工夫・創造)

#### (2) 本時におけるつなぎの工夫

つなぎA：生徒の思考を広げる（深める）言葉かけの支援

「便利ポケット」のグループ発表において、話し合いが進まないグループに対する教師の声かけや支援をする。(使用目的、形、大きさ、デザイン、製作時間などに対するアドバイス)

つなぎB：ワークシートの読み取りからの支援

グループ内の発表においてアドバイスをもらい、各自がワークシートに再考、修正をする際に基礎縫い診断の評価、コメントも参考にする。

本時のワークシートは回収し、評価、コメントを入れ次時まで返却をし、フィードバックをする。

つなぎC：生徒同士の情報交換による支援

前時に各自が考案した「便利ポケット」についてグループ間で発表し、お互いにアドバイスをし合う。再度個人にもどし「便利ポケット」のデザインを再考し、修正して最終決定していく。この場面において、使用目的に合った「便利ポケット」の工夫がされているか、どうすれば目的に合った「便利ポケット」になるかなど、お互いに思考を広め、深めていく。

#### (3) 本時の展開

段階	時間	学習活動	教師の指導・支援	評価
----	----	------	----------	----

<p>導入</p>	<p>5</p>	<p>○前時の内容を確認する。</p> <p>○本時の目標や学習内容を確認する。</p>	<p>○前時の内容を確認させる。</p> <p>・各自に、ワークシート『便利ポケットを考えよう』を確認させる。</p> <p>○本時の目標や学習内容を伝える。</p>	
<p><b>便利ポケットをアドバイスをもとに、再考し、工夫しよう。</b></p>				
<p>展開</p>	<p>15</p>	<p>○自分が考えた便利ポケットについて発表し、アドバイスし合う。</p> <p>・「アドバイスの観点」に基づき話し合う。</p> <p>・ワークシート「便利ポケットを考えよう」を発表し、仲間のよい点（ピンク）改善点（ブルー）を付箋に記入、交換しワークシートに貼る。</p>	<p><b>思考のトレーニング</b></p> <p>○発表方法とワークシートの記入方法を説明する。</p> <p>・1人あたり5分以内で、ワークシート「便利ポケットを考えよう」を発表させ、他の2人にアドバイスをさせる。（よい点をピンク付箋、改善点をブルー付箋に記入させ、発表者のワークシートに貼らせる。）</p> <p>○前時に作成したワークシートの「この形にした理由」「工夫したいところ」「気をつけたいところ」をグループで発表させる。</p> <p>・「アドバイスの観点」を提示、確認させ、お互いにアドバイスさせる。</p>	<p>ワークシート</p> <p>⑱</p> <p><b>【関】</b></p> <p><b>【工】</b></p>
<p><b>アドバイスの観点</b></p> <p>①活用目的に適した工夫がされているか。</p> <p>②基礎縫いの学習が活かされているか。</p> <p style="text-align: center;">→「基礎縫い診断表」を参考</p> <p>③制限時間（2時間）内でポケット製作ができるか。</p>				
<p>・ポケットの種類や基礎縫い診断表な</p>				

	<p>15</p> <p>○仲間のアドバイスを参考に自分のデザインを再考したり製作計画を修正したりして、確認し、ワークシートに記入する。</p>	<p>ど、これまでのワークシートの評価を参考にさせる。 <b>つなぎB・C</b></p> <p>○仲間のアドバイスを参考に、自分のデザインを再考し、製作計画などを修正、確認をさせワークシートに記入させる。</p> <p>○目的に応じた「便利ポケット」になるよう必要に応じて声かけをする。</p> <p><b>つなぎA</b></p> <p>○ワークシートに記入した内容は、教師がチェックして、個々に返し、ポケットの製作計画の最終確認とする。</p> <p><b>つなぎB</b></p> <p>○指名したグループ代表者に発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実物投影機で写しながらわかりやすく発表させる。</li> <li>・発表内容に対して評価、コメントをする。 <b>つなぎA</b></li> </ul>
	<p>10</p> <p>○いくつかのグループが再考、修正、確認をした内容を発表し、他の生徒は発表を聞く。</p>	

まとめ

5

**便利ポケットを考えよう！！**

No19

組 番 氏名( )

この際にした理由 (誰のため？ 誰に？)

工夫したところ (部・組・学年・地域・材料品などから考えよう)

自分のデザイン  
\*下のバグとデザインしてあるよ。

\*アドバイスをもらった時

アドバイスをもらって、考えたこと

発表のついでに (部・組・学年・学年・道県や市の数) (等)

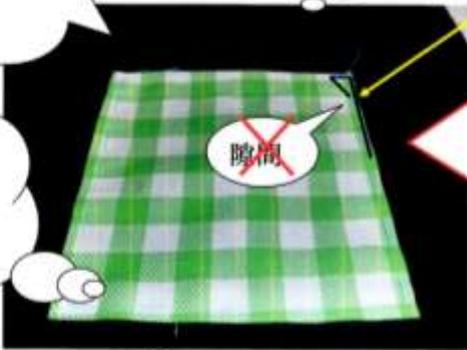
決定！

○授

○掲示物の例

振り返りシートを活用した「先輩達からのアドバイス」

### 2 ポケット付け



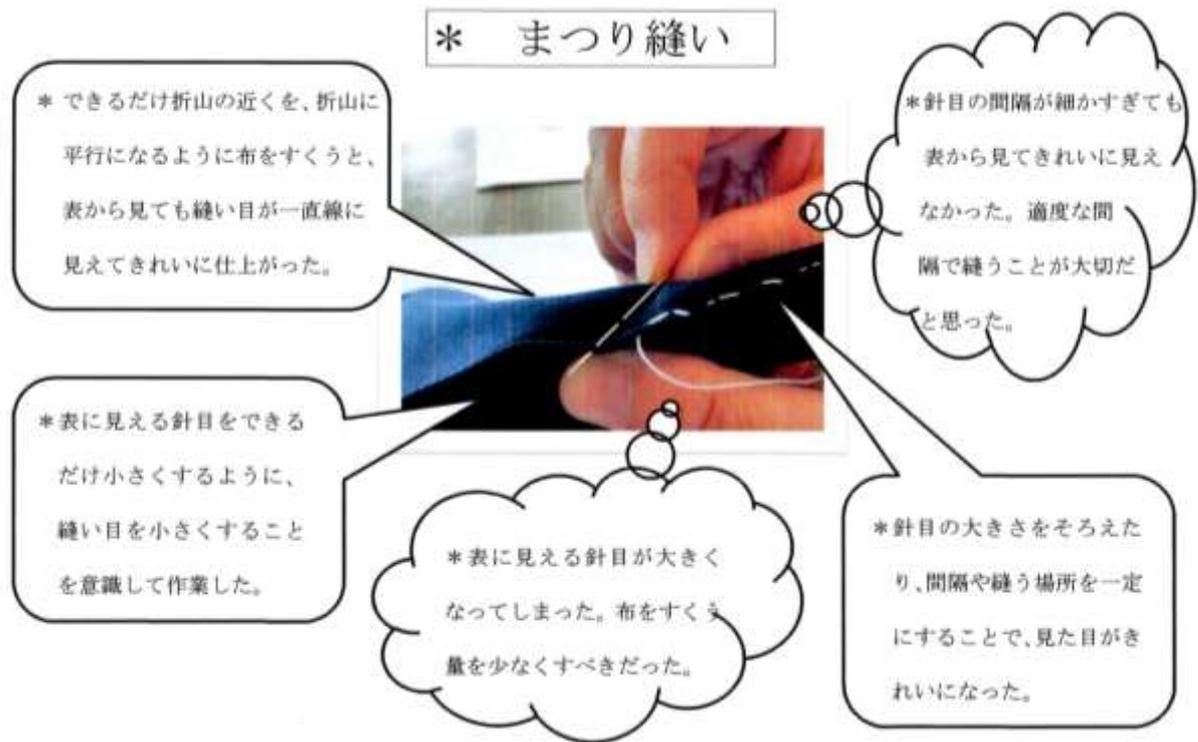
下の布に重ねる時、ポケットが曲がらないように気を付けた。上下左右のバッグの縫い代を考えて配置することは大切だと思った。

しつけ糸を伸ばさないまま玉止めをしてしまい、そのままミシン縫いしたらポケットがつかれてしまった。

\*ミシン縫いの位置を考えてしつけをし、糸がつかれないようによく伸ばしてから玉止めをするとよい。

三角形に縫う時、縫いはじめ部分と直線になる部分が重ならないと、糸がほどけやすい。

この部分の針目の数を数えておき、反対側を縫う時に、同じ数だけミシンの針を動かせば、大きさがそろろう。ミシンを一旦とめて、その部分だけ右側と同じ針目の数だけ、はずみ車を手で回して縫ったら、焦らないで縫えた。



## 6 成果と課題

### ○成果

- ・「衣生活に関する指導」全体に目を向け、総時間数21時間の学習指導案と使用するワークシートを作成した。このことにより、全体計画を見通せ、授業が取り組みやすくなった。
- ・掲示物を作成したことで、生徒への提示や思考を深めさせる場面で有効活用することができた。
- ・毎時間振り返りシートを記入することにより、生徒一人ひとりの課題が見えるようになってきた。そのため、課題に対する手立てを準備するなど、指導に生かすことができるようになった。
- ・部会での研究も6年目をむかえ、継続してきたことでの研究の深まりを感じる事ができた。

### ○課題

- ・基礎縫いや製作の計画に時間をかけたことで、生徒達は見通しを持ち、製作に自信を持って取り組むことができるようになった。このため、完成した作品の満足度は高い数字を

示している。しかし、これらの実践がすぐに家庭生活での実践には結びついてはいかない。今後、家庭での実践につなげていけるように、授業の工夫改善をおこなっていきたいと考える。

・「衣生活に関する指導」の21時間を検討し、授業実践を進めてきた。日々の実践をおこなう中で、授業の進め方や教材の提示の順序など、改善を加えた方が良いのではないかとこの箇所もできたので、今後検討し、さらにより良い授業実践ができるようにしていきたいと考える。